秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

地域支援だより
きらりNet
令和４年１２月６日
第１２７号
秋田県立秋田きらり支援学校
地　域　支　援　部

交流学習　～様々な形で行っています～

コロナ禍においても、形を変えながら交流学習や共同学習を継続しています。直接会えなくても、「同じ地域の仲間・学校」としてお互いの存在を確かめ合うことが、この先も「地域で暮らす」うえで大切になります。直接子ども同士が交流できなくても、次に紹介するような工夫が可能です。中でも ICT の活用が各校で進み、リモートによる交流の数が増えています。　（文責：山本　泉子）

直 接 交 流

小学校の友達と一緒に道徳や外国語活動、お楽しみ会などをしました。自分の意見を発表したり、様々な意見を聞いたりと集団で学び合う良さを実感することができました。

リ モ ー ト 交 流

オンラインで、小学校の友達と教科学習や学校紹介、修学旅行など行事の報告を行っています。友達と顔を合わせて交流できるので、子ども同士楽しそうに活動が進みました。

間 接（手紙） 交 流

手紙や DVD、メールなどで交流する間接交流も行っています。手紙の交流では、学習紹介や交流学級の一人ひとりから温かいメッセージが届きました。本校からも友達に手紙を作って渡し、気持ちを伝えることができました。

出前授業（障害理解学習含む）

コロナ禍になる３年前にはボッチャ交流を行っていた御所野学院中学校で、今年度は１年生を対象に出前授業を行いました。学校や生徒の学習の様子や、支援ツールの紹介を行いました。また、車椅子の体験では、どのような言葉を掛けて接したらよいか考えを深め、関わる上で大切なことに気付いたり感じ取ったりする様子がうかがえました。

＜生徒の振り返りより＞

- **自分から声を掛けて関わりたい。**
- **想像以上の大変さが分かった。**
- **「気持ちは自分たちと同じ」ということが心に残った。**

秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

秋田南高等学校２年生との交流及び共同学習　<高等部：総合的な探究の時間>

高等部1、2年生が、秋田南高校の生徒と3年ぶりの交流をしました。始めはお互いに緊張してなかなか話し掛けられずにいました。職員が仲介し、高等部生の表情や発声を読み取り言葉で伝えると、やり取りがスムーズになり互いに気持ちを伝え合おうとする姿が見られるようになりました。

「ボランティア活動」の一環として来校した南高校の生徒さんでしたが、活動を通して気持ちや考え方に変化があったようです。同世代らしく、自然に関わり合う場面がたくさん見られた今回の交流は、両校の生徒にとって普段は得難い貴重な経験であったと嬉しく感じました。

二人の協力で成功のハイタッチ！

＜南高校の生徒さんより～交流を終えて～＞

『同年代でも交流する機会のなかったきらりの生徒の皆さんの、優しいところや明るいところにとても驚きました。障がいの有無で学校が区別されていますが、中身は何ら変わりのない高校生であることに気付かされ、また忘れてはいけないことだと思いました。』

『きらり支援学校のことを何も知らなかったのですが、2回の交流を通してたくさんの知識を得ることができました。今回の交流は自分の将来への刺激に、また地域への興味関心の高まりにもつながりました。』

みんなで作戦会議

（文責：工藤　裕子）

教育専門監のコーナー

心のキャッチボール～相互理解の必要性
円滑なコミュニケーションを目指して

【最初は自己理解～まずは自分に目を向けるために】

例えば、外から見える態度を観察し、主導型、分析型、友好型　、表出型の4つのタイプに分類した「ソーシャルスタイル」。様々な手段を用い、自身を深く知り、受け止めることで、自分への気付きを促していきます。

【次に他者理解～向かい合う相手を深く受け止めるために】

相手が何を感じ、何を考え、何を言わんとするのか、積極的に聴き、気持ち、欲求を受け入れ、理解しようとする「アクティブ・リスニング＝積極的傾聴」。他人の良さに目を向ける態度を育むことで、相手への肯定的な理解を促していきます。

【さらに自己表現～自分を自分らしく伝えられるために】

相手と自分自身を尊重し、自分が考えていることや伝えたいこと、感情を、自分らしく伝えていく自己表現。言葉や文章だけなく、自らの意のままに、身振り、手振り、顔の表情を使い伝える表現力を育んでいきます。

【そして相互理解～互いを思いやる】

対話と交流は、互いの”思いや意図”をやりとりする心のキャッチボール。相手の立場を知り、尊重し合うやりとりと繰り返す努力が共通性・共有性を作り上げ、相互理解のコミュニケーションを作り上げていきます。

参考：『心のキャッチボール』
（WEB サイト「三越伊勢丹ヒューマソ・ソリューションズ」）

《心のコップを満たす》

相手との関わりの中で、自分への気付きを深め、価値を見いだしていく、高等部の総合的な探究の時間の実践。互いの思いや意図のやりとりを繰り返す同世代との交流及び共同学習を通して、自分との違いや同じところを受け止め、自分の価値を見出していきます。誰しもが持つという「自分を分かってほしい、大切にしてほしい」という気持ちで満たされた心のコップ。大切にしているのは、互いの心のコップを満たすキャッチボール。相手の心のコップを満たすために、相手を思い、自分のコップを満たす思いを空けてから、相手と心を通わせます。相手を尊重する言葉はもちろん、名前を覚える、相手の目を見つめる、小さな変化に気づく、笑顔を向ける、遮らずに最後まで話を聞く、人を思いやる上で自分にできるあらゆる表現で相手と向き合います。安心感と親近感を育む心のキャッチボールで関わる互いの心のコップが満たされていきます。相手が笑顔なら、こちらも笑顔。生徒は今日も「表情」や「なにげない仕草」で心を通わせていきます。

〈文責：二階堂　悟〉

教頭　　近藤　郁　　地域支援部主任　　大友　明希子
住所：〒010-1409　秋田市南ケ丘１丁目１番１号
E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp
電話：018（889）8573　　FAX：018（889）8575

「きらり Net」は本校ホームページから閲覧することができます。
http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html